

## ☆☆☆ 朝 礼 講 話 ☆☆☆

9月9日(月)

『 聴 く 』

講話 校長



明日から運動会の練習が始まります。学年の種目やブロックの種目、十四山音頭、応援合戦などいろいろあって楽しみです。

しかし、それだけたくさん覚える必要があるということでもあります。こうして新しいことを覚えたりできるようにしたりするとき、一番最初にするには何ですか？

そうですね。何をどのようにしたらいいのか、きいて知ることです。

ここで、今「きく」と言いましたが、漢字で書くとどんな字ですか？高学年の人は、もう習っていますね。「門」の中に「耳」を書く「聞く」という字ですね。しかし、「きく」という言葉は、別の漢字でも書きます。それは「聴く」という字です。この2つの漢字の意味は、どのように違うのでしょうか。

夏休み中、暑い中で毎日セミがうるさくありませんでした。このセミの鳴き声は、勝手に聞こえてきますね。名古屋の駅では、大勢の人がいろいろしゃべりながら歩いています。その中にいると、まわりの人の声が勝手に聞こえてきます。こうして聞こうとしなくても勝手に聞こえてくるときに「聞く」という漢字を使います。



それに対して、「今先生が、新しいことのやり方を説明しているぞ」「これをするときの注意点を話しているぞ」と言うときは、「どうやってやるのだろう」「何を気をつけたらいいのだろう」と考えながらききます。こんなときに「聴く」という漢字を使います。

運動会の練習や普段の授業などで先生が話しているときは、どちらの「きく」が必要ですか？そうですね。考えながら「聴く」ことが大切です。

いつも先生が話しているときや友達が発表や説明をしているときは、なんとなく「聞く」ではなく、集中して考えながら「聴く」ようにしてください。

## 江戸しぐさ

多くの小学校では、休み時間に運動場でサッカーをすることは、禁止になっています。しかし、十四山東部小では、みんなが元気にサッカーをしているので、最初驚きました。そして思ったのは、お互い周りに気を付けて遊ぶことができるから大丈夫なんだなということです。この様子から、『江戸しぐさ』という言葉思い出しました。

次が『江戸しぐさ』の代表的なものです。

「傘かしげ」 雨の日にお互いの傘を外側に傾けてぶつからないようにすれ違うこと

「こぶし腰浮かせ」 後から舟(今なら電車)に乗ってきた人のために、みんながこぶし一つ分ずらして席をあけること。

どれも相手や周りの人のことを考えた、思いやりの行動です。十四山東部小では、授業中でも休み時間でもこうして周りのことを考えた行動『十東しぐさ』がどんどん広がっていくといいですね。

